



子として、個として

先日、テレビで小さい子供がお使いをする番組を見ました。毎年、見ていていつも泣かされています。いざ出発となると、不安になるのかなかなか家から出られない子供もいます。お父さんの大切な時計をはめてあげたり、仕事着を着させたり、様々な方法で子供の意欲を高めて、お使いに行くことができるようにと頑張っていました。今回の番組では、一度お使いに行ったのですが、全て買えずに戻って来てしまった子供がいました。子供は「もう行きたくない」とぐずり出しました。お父さんは、とても冷静に対応し、家の外で30分位子供の気持ちが整理できるまで一緒に座って、子供の気持ちに寄り添うように優しい語り口でお使いに行くように話しかけていました。その様子を見て、自分が若い頃に先輩教員が話していた「子としてみるだけでなく、個としてみる」という言葉を思い出しました。自分の「子」、まだ分からないことが多い「子」供としてみるだけでなく、一つの個性をもった「個」として見ていくことも大切という話でした。

学校でも、「子」供という視点だけでなく、「個」として見ていくことも大切にして、一人一人にあわせて、あわてず、じっくりと指導していく大切さを思い出させてくれた番組でした。(山賀)

